

大津市中心市街地活性化協議会プロジェクト会議 事業計画及び活動実績

プロジェクト会議名	水空間デザインプロジェクト会議
-----------	-----------------

年度	活動計画（予定含む）・活動実績※具体的に	中活協議会予算支出予定額・実績額内容
平成25年度 （実績）	①湖岸エリアの現状把握 ・湖岸エリアの歴史、変遷を把握 ②水辺をとらえる研究会の開催 ・勉強会 ・フィールドワーク	実績額：78,819円 内訳： ②研究会開催費 78,819円 （資料代、貸し室代、学生交通費等）
平成26年度 （予定）	①湖岸エリアの現状把握 ・関係法令等の整理 ②水辺をとらえる研究会の開催 ・水辺空間模型の作成 ③関係機関との事前協議 ④湖岸エリアの方向性の整理 ⑤提案内容（案）のまとめ	予算額：450,000円 内訳： ②研究会開催費 150,000円 模型製作費 300,000円
平成27年度 （予定）	①関係機関との協議 ②提案内容のブラッシュアップ ③提案内容のまとめ ④事業を提案	予算額：450,000円 内訳： ②③提案内容検討費 450,000円
平成28年度 （予定）		
平成29年度 （予定）		

## 第2回水辺をとらえる研究会 開催報告書

**開催日時** 平成26年6月1日(日) 10:00~16:40

会場：滋賀県立大学 B-O 会議室

### 研究会の目的

中心市街地活性化を目的として、大津市中心市街地活性化協議会の水空間デザインプロジェクト会議が事業提案としてまとめる、湖岸エリアのあり方や活用方策に関する事業計画(案)を提案する。

### 第2回研究会のテーマ

#### 【都市や町の水辺に近づく】

内容：水辺を持つ都市や町で魅力となっている要素を発表する。

### 参加者

(主催側) 6名

水空間デザインプロジェクト会議：

山本リーダー、松岡サブリーダー、石川委員、秋村委員

成安造形大学附属近江学研究所 研究員：加藤先生

大津市：北田

(研究生) 12名

滋賀県立大学 8名(平郡、白井、中安、山本、谷内、森田、王、鞠)

成安造形大学 4名(石田、栗田、加藤、丸山)

### スケジュール

10:00~10:05	前回までのおさらい(都市再生課)
10:05~10:10	今回の課題確認と発表順紹介(石川先生)
10:15~11:50	午前発表(4名) ※滋賀県立大学学生による発表
11:50~12:00	中心市街地の歴史・文化やその変遷を再確認(加藤先生)
12:00~13:00	昼食
13:05~15:00	午後発表(4名) ※成安造形大学学生による発表
15:00~15:10	水辺空間における法的条件の確認(都市再生課)
15:15~15:50	加イタ仏

#### 【ブレインストーミングテーマ】

(水辺を持つ都市や町で魅力となっている要素を参考に大津の水空間デザインに取り入れる要素を探る。)

15:55~16:30	グループプレゼン
16:30~16:40	総評(松岡先生)、次回内容の確認(石川先生)
16:40	解散

次回 第3回水辺をとらえる研究会 8月30日(土曜日)

場所：成安造形大学(予定)

## 1. 滋賀県立大学学生発表

### ①平郡さん

ヨーロッパの水辺都市を調べて

- ・イタリア（ベネチア）・・・テラス、食品、レストランが水辺にある。（水に触れられる空間がある。）
- ・スイス（ジュネーブ）・・・レマン湖の大噴水や護岸が大津に似ている。
- ・オーストリア（プレゲンツ）・・・イベント、湖岸を会場とした大きなオペライベントとして、プレゲンツ音楽祭を開催。



### ②山本さん

アジアの水辺都市を調べて

- ・ベトナム、モンゴル、マレーシア、マラッカ、トルコ、中国
- ・シンガポール・・・ABCウォータープログラムの実施
  - アクティブ(A)・・・新しいレクリエーション・スペース
  - ビューティ(B)・・・都会の『景観』への水の融合
  - クリーン (C)・・・水質の向上



### ③白井さん

アメリカ大陸の水辺を調べて

- ボリビア（天空の鏡）、メキシコ（水中の美術館）、ペルー（砂漠のオアシス）、
- グアテマラ
- アメリカ（サンフランシスコ）・・・フィッシャーマンズワーフ、  
大道芸のパフォーマンス



### ④中安さん

国内（日本）の水辺を調べて

- 横浜、長崎（水辺の森公園・・・新しい長崎の象徴）、
- 瀬戸内国際芸術祭（イベント）、東燃ゼネラル和歌山工場（背景に海）



## 2. 中心市街地の歴史・文化やその変遷を再確認（成安造形大学近江学研究所：加藤先生）

- 江戸時代の大津・・・門前町、宿場町、港町としての顔を持つ。
- 港町・・・物資の拠点（水運）米相場
- 昔は、水辺が生活と深く関連づいていた。今は、日常と水辺が分離されている。



### 3. 成安造形大学学生発表

#### ①石田さん

自身の住む町神戸の水辺を調べて、水辺の魅力を探る。

- 手を伸ばせば触れる親水デザインを紹介。
- 木材を使った地盤は良いのではないか。



#### ②丸山さん

福岡の『海の中道公園』及び『大濠公園』を紹介。海が見えるイルカショー、大阪（りんくう公園）、東京品川（セントラルパーク）を紹介。

⇒子どもと遊べる冒険心あふれる水辺の空間が必要である。



### ③加藤さん

- (1) 開放感のある空間・・・横浜
- (2) 統一感のある水辺の空間（オランダ、アムステルダム⇒文化⇒花を窓辺に飾る習慣）
- (3) 居心地の良い水辺空間
  - ・京都（鴨川）・・・公園のような使われ方。視界が広がり易い。  
花(植物)など四季折々の景色を感じられる。
  - ・川辺が岸より下がることで、住宅街から遮断されている。
  - ・神奈川（山下公園）
- (4) 親しみやすい水辺空間
  - ・神奈川（山下公園）・・・手すり、ベンチ



### ④栗田

オランダ（アムステルダム）、アメリカ（ボストン）、ベルギー（ゲルゲン）、フランス（アヌシー湖）、イギリス（グラスミア）の水辺や町の特徴を紹介。  
『人工のものの中に自然が調和している』



#### 4. カフェタイム

Aグループ（平郡さん、中安さん、丸山さん、石田さん、谷内さん、王さん）

Bグループ（白井さん、山本さん、栗田さん、加藤さん、森田さん、鞠さん）



## 5. グループプレゼン

### Bグループ

- 7つのテーマを設定し、大津の湖岸を魅力あるものにする素材を抽出した。(別紙参照)





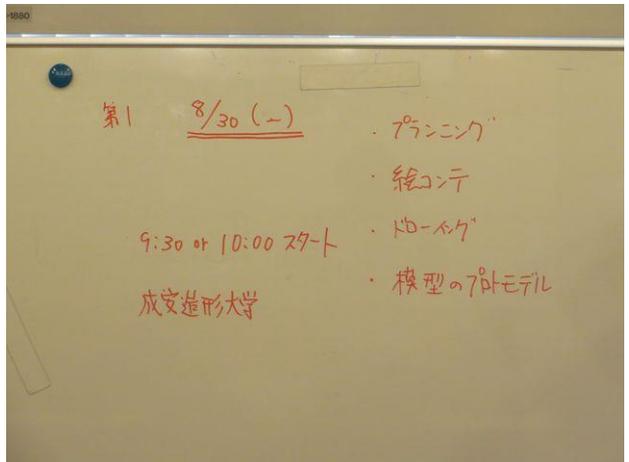
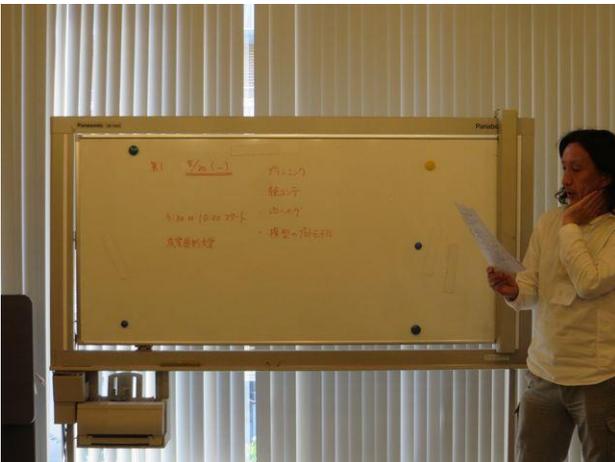
## 6. 総評、次回内容の確認

### 松岡先生総評

- 身近な親水的な話や、引いて見た『風景』、『景色』の話もあった。
- 水はランドスケープを考えると、避けては通れないもの。(環境科学)
- 水のある生活 ⇒ 人は寄っていく。
- 感覚的なものと物理的なものの意見が入っていたが、これを分類すると面白い。
- 次回は各自で創ったものをグループ内で出し合い、見せ合い、選んで4回目へをすすで欲しい。

### 石川先生次回内容の確認

- 大津の水辺にとって相応しい空間デザイン(案)をプランニングし、発表する。  
⇒模型のプロトモデルとなる。



山本リーダー挨拶



# 7つのテーマから見えるこんなのがあったらいいな

## テーマ①【開放感がある空間】

透明感のある建築物  
 ビル（建物）と水辺の間の空間  
 明るい太陽を感じる  
 水平線 太陽・山が映る  
 下が歩道。上が車道の水辺の道  
 水たまりに寝ころがる  
 水と陸の境界線（フェンス・塀）  
 川があることによる開放感  
 風が通るすがすがしい  
 池じゃなく川のほうがいい  
 広い遊歩道  
 広い道・長い道 水空間が大きく見える  
 視界が開けてる  
 狭いところから広いところに出ると自然の風景がよりよく演出される

## テーマ②【統一感のある水辺の空間】

人を誘導するための工夫（道、アーケード、街灯）  
 水やびわ湖に関係のある施設やオブジェ  
 伝統ある景色  
 グリーンを豊富に使う  
 調和混ざり合ってる  
 まわりの建物  
 廊でつながっている  
 同じオブジェが点在している。品川セントラルガーデンとか  
 素材が同じ。木の種類やベンチの種類  
 じゃまなものが入らない  
 人々の暮らしに根づいた景観  
 同じ色の屋根が並び  
 似た建築が並んでいる。アムステルダムとか

## テーマ③【居心地の良い水辺空間】

木材の地面  
 ベンチ  
 びわ湖+α自然  
 自然と触れ合える  
 おだやかで水のせせらぎが聞こえる  
 景色が良い  
 しばふ  
 開放感  
 車がこない  
 自然を感じれる  
 安心が保証される  
 音がうるさくないところ  
 住んでいるところから行きやすい  
 噴水の涼しそうな感じ  
 動物がいる  
 座れる場所 ベンチ or 地べた 鴨川の等間隔の法則  
 水の音が聞こえる  
 水がきれい

## テーマ④【親しみやすい水辺空間】

水に近づける触れられる。浅いところに入る  
 道具で水に誘導  
 道から水まで階段で連絡する  
 飛び石  
 小さい水路がたくさんある  
 たくさんの人とふれあえるオープンな場所

## テーマ⑥【商業施設とつながる空間】

テラス  
 海釣り公園  
 統一感のあるコンセプト（イメージ）にあった建物の店  
 水族館  
 港とのかかわり  
 水とかかわりのある物売店  
 水上レストラン  
 大津（しが）の特産品の販売  
 水のパビリオン、水道具（大きな観覧車のようなもの）  
 水運という昔ながらの動力を使って商業施設をつなぐ  
 人がいっぱいくるたまり場をつくる  
 水に関連したショップ（のどが渇くなど）  
 海の家 遊びと休みが一体となっている

## テーマ⑦【イベントで人気を集める場所】

瀬戸内国際芸術祭 さびれた漁村に異質な現代アートを置くことで活性化→地元の人の手と来客者の力によってできる何かしらのイベント  
 四季に合わせた年中行事  
 花火大会  
 しおひがり  
 アート  
 代表する建築を建てる  
 水上の派手なステージ  
 フリーマーケットなど地域の方とのネットワーク  
 グルメ  
 ものをつくるワークショップ  
 人が接しやすいあえて狭い空間 会話がうまれる

## テーマ⑤【みどりと水のネットワーク形成】

スプリンクラーが回っていると走って遊びたくなる  
 小川みたいな感じの水辺  
 水を引き込みたい  
 山の自然を取り込んだアスレチック  
 手入れのしやすい植物でなく大津らしい自然のものを  
 季節の花々も一緒に楽しむ  
 水の中にはえる植物  
 冒険したくなるような生物がいっぱいいる整備されすぎでない川  
 高さでわかる  
 木を植える  
 花壇を続ける

